

この度の東日本大震災で、多くの方の尊い命が失われたことに深く哀悼の意を捧げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

平成23年2月25日、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が厚生労働省の健やか親子21推進協議会の承認を得ました。

◆2010年度思春期ピアカウンセラー養成数◆

NO	都道府県 【養成者名】	平成22年度養成人数		
		男	女	合計
1	北海道【中出】	2	10	12
2	青森県【岩間】	0	7	7
3	秋田県【岩間】	0	14	14
4	岩手県【後藤】	0	48	48
5	山形県【遠藤】	2	6	8
6	福島県【石田】	4	24	28
7	栃木県【高村】	2	39	41
8	群馬県【池田】	4	36	40
9	埼玉県【三橋】	0	5	5
10	長野県【中澤】	0	28	28
11	静岡県【光本】	0	0	0
12	奈良県【躰】	1	7	8
13	兵庫県【高田】	5	19	24
14	鳥取県【前田】	2	14	16
15	岡山県【忠津】	2	4	6
16	香川県【松本】	1	28	29
17	徳島県【忠津】	2	5	7
18	福岡県【野口】	—	—	—
19	宮崎県【前田】	0	10	10
20	熊本県【前田】	1	11	12
21	鹿児島県【下敷領】	0	10	10
22	U-COM【三橋】	2	6	8
合計		30	331	361

健やか親子21推進協議会団体として承認されました。

健やか親子21推進協議会とは、国民運動「健やか親子21」の趣旨に賛同し、母子保健に関する主要課題の解決に向けた自主的な取り組みを実施しようとする関係機関・団体が、「健やか親子21」を効果的に進めるために組織された協議会で、事務局は厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課にあります。

協議会は日本公衆衛生学会などの学会や日本看護協会などの医療専門職能団体などの88団体で構成されています。その中に平成23年2月25日、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が新規参加団体として加わることが認められました。

詳細については厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課のホームページ第10回健やか親子21推進協議会総会資料をご覧ください。

(<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb16GS70.nsf/vAdmPBigcategory60/2FEBA7726EC537CC49257845000F6878?OpenDocument>)

◆ 第6回「ピアカウンセラー養成者」養成セミナー開催 ◆

第6回から、思春期だけでなく広くピアカウンセラー養成に関わる人を養成することを目的に、「ピアカウンセラー養成者」養成セミナーと名前を変更しました。今年の養成セミナー参加者の感想です。

7月に開催された前期コース、そして12月に開催された後期コースに参加“しました”。ここで敢えて“しました”と書いたのは、共にセミナーを受講した仲間の一人に共感したからです(詳細は、家族計画協会発行「家族と健康」第681号(H22.12.1)をご覧ください)。

頭と心が揉まれに揉まれ、揉み返しがきて軽い疲労を感じながら仲間に支えられて終えた前期コース、再会を喜び、刺激を受けながらあっという間に終わってしまった後期コース。このセミナーの受講を通して、自分の「らしさ」を知り、それを大切にすることの素晴らしさ、そして、みんなの「らしさ」との出会いによって素敵なハーモニーが生み出されることを実感し、ピアっこを支える側の仲間達と、ピアっこ達と、そして若者達と、いろんな音色のハーモニーを奏でていきたいという思いを強くしました。また、「心配する、案じる」と言えば聞こえは良いけれど、それは、若者が持つ力を信じていなかったり、主体を取り違えてしまっていたりすることの表れではないかと気づく機会でもありました。

ようやくピア養成の緒に就いたばかりですが、今後も研鑽を積み、仲間と共にしっかりと若者に寄り添っていきたいと思います。最後になりましたが、講師の先生方と共に受講した仲間達、そして研修を支えてくださった皆様、ありがとうございました。(服部律子)



◆11月27日(土) 全国同時多発ピア（世界エイズデーに因んで）◆

栃木県ピアカウンセラー ピアリンクリーダー
行方 愛（国際医療福祉大学）

目標：同世代の人にエイズのことをもっと知ってもらいたい。

参加者：高校生ピアを含む21人のピアッコが参加

配布物：12月1日は世界エイズデーと書かれた紙、
レッドリボンと共にU-COM配布資料、
栃木県配布資料(写真参照)ピアルーム
カードの入った巾着袋

配布数：300個

準備：配布物を巾着袋に詰め、レッドリボンを
つけてラッピング

場所：宇都宮繁華街 メガドンキホーテ前、
パルコ前、ピアルーム

配布方法：5人グループで何回かピアルームと配布場所を往復して、わずか1時間弱で全部
配布することができた。



当日：ただ、渡すだけでなくピアとは何のことか、具体的なピア活動やAIDSに関する情報
と予防のためのコンドームについて伝えた。街頭
でピアに興味を持ってくれた方、時間のある方に
ピアルームを紹介した。また、ハートの紙に「あ
なたの大切なもの」を書いてもらい、ピアルーム
のツリーに飾った。みんなの思いがたくさんつま
った素敵なツリーが完成！栃木県のピアっ子も
色々な学校の子がいるので、一緒に活動できて交
流できたこと、同じ活動を全国のピアっ子が取り
組んでいると思うと、勇気付けられた。



感想：今回の活動を通して中高生やカップル、思春期の子どもをもつ親など、様々な方と
お話しできました。AIDSについて知らない人もいたので、私たちの活動が知るきっかけに
なってくれたら嬉しいです。



◆青森からのメッセージ◆

今回の大震災のことでは、ご心配をお掛けいたしましたようですが、本学在学中のピアッ子、よっちゃん、私、全員無事でした。

地震当日は、3月13日開催予定のピアルームのリハーサルと準備のため、大学内の実習室にピアッ子13名と一緒にいました。最初は、地震だねといいながら話していたのですが、徐々に強くなりなかなか治まらないので、窓とドアを開けて、廊下に出ると「大きい地震だから外に出たほうがいい」という声が聞こえたので、急いでピアッ子とともに3階から1階の玄関へ避難しました。廊下の天井から吊り下げ式の電灯は、廊下の幅いっぱいには振れ、ピアッ子に危ないから廊下の端を歩くように話しました。

地震発生直後から停電となり、電話、トイレ、水道が止まり、外では、信号機も止まりました。1階の事務室でワンセグから映し出される映像やラジオから流れる情報で、大きな地震が起きたこと、大きな津波が起きていることを知りました。ピアッ子の無事を確認後、ゆれがおさまるのを待ち、3階に荷物を取りに行き、ピアッ子を返しました。

ピアッ子達は、翌々日のピアルームの準備やリハをしないと話しましたが、今日・明日はすべて中止、状況をみながらピアルームを開催することができるか連絡を待つようにといい、帰宅させました。電車通学しているピアッ子も家族に迎えに来てもらっていました。私も信号機の点かない、道路をいつもより慎重に1時間以上をかけて、弘前に帰りました。

その後、大館では2日間停電が続き、13日は会場の都合で、ピアルームは中止となりました。ピアッ子達は、2日前に中学校で行ったピアカウンセリングの際、「13日は来てね！」とPRしていたので、どうしてもやりたかったのですが・・・。

中止の連絡をするのに苦労しました。携帯の電気がなく、メールができないのです。翌日の朝に充電器を購入するためにホームセンターに2時間ならび、それでも自動車から充電する充電器を買うことができましたので、自動車のテレビをみながら充電し、メールをしました。

卒業生のピアッ子の中には、両親が岩手県大船渡、祖父母が陸前高田市、で数日間、連絡が取れなかった子もいました。いまだ、祖父母の方の安否については連絡がありません。

(岩間)

<編集後記>

一関高等看護学院は4月7日の余震で建物が壊れ、事務局は合同庁舎に間借りし、授業はホテルを借りて行っているということです。

今年は全国ピアカウンセリング大会の開催も予定されております。皆様とお会いできるのを楽しみにしています。



日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会	
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1	
自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門	
電話	0285-58-7338
FAX	0285-44-7217
発行人	高村寿子
編集人	前田ひとみ
年3回発行	http://www.ipcaea.net/